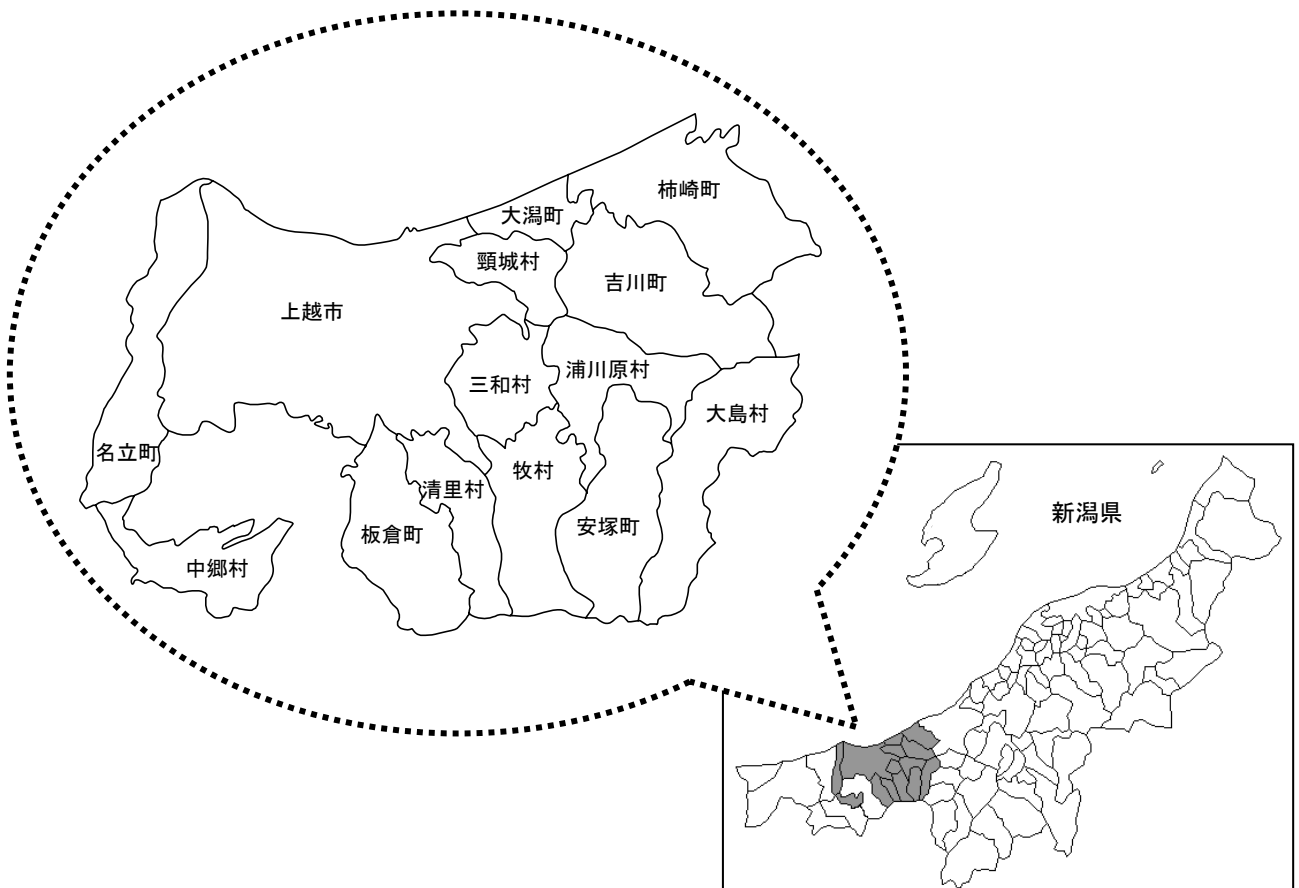


第2章 新しい上越市の概況

第2章 新しい上越市の概況

1 新しい上越市の構成

新しい上越市は、上越市、安塚町、浦川原村、大島村、牧村、柿崎町、大潟町、頸城村、吉川町、中郷村、板倉町、清里村、三和村、名立町の1市6町7村の合併により、平成17年1月1日に誕生した。



※市町村境界は平成16年10月31日現在

2 位置・面積

新しい上越市は、新潟県の南西部に、日本海に面して位置し、北は柏崎市、南は妙高市、長野県飯山市、東は十日町市、西は糸魚川市と接する。中央部には、関川、保倉川等が流れ、流域には高田平野が広がり、この広大な平野を取り囲むように、米山山地、東頸城丘陵、関田山脈、南葉山地、西頸城山地などの山々が連なる。また、海に目を向けると、海岸線には砂丘が続き、砂丘と平野の間には天然の湖沼群が点在している。このように、新しい上越市は、多様な自然を有する海・山・大地に恵まれた自然豊かな地域である。

新しい上越市の面積は平成17年1月1日現在972.62km²であり、合併前の上越市

第2章 新しい上越市の概況

(249.24 km²) の約4倍で、佐渡市(854.98 km²)を上回る。

土地利用を見ると、高田、直江津などが市街地となっているほか、その周辺で、土地区画整理事業などによる宅地化、商業地化が進み、都市的土地利用がなされている。これより東側の地域は農業を中心とした土地利用が進められているが、工業団地や住宅団地の造成などにより農地が減少している。中山間地は、農業生産機能のほか、景観形成や環境保全機能を有しているが、農業の担い手不足などの影響により耕作放棄が増加し、農地の荒廃が進み、棚田の保全等が困難な状況となっている。山地、潟湖、海岸線は県立自然公園に指定されるなど、自然をいかしたレクリエーションの場として活用されている。

なお、新しい上越市では、田・畑、山林・原野、池沼・雑種地などの面積は、平成17年1月1日現在総面積の94.9%にも達し、特に田・畑の割合は総面積の21.4%を占める⁽¹⁾。これは、新潟県全体の15.9%⁽²⁾と比べて高く、新しい上越市の特徴と言える。

(1) 出典：『固定資産の価格等の概要調書』上越市資産税課

(2) 出典：『固定資産の価格等の概要調書』新潟県市町村課

3 人口・産業構造

新しい上越市の人口は208,082人(平成17年国勢調査値)で、新潟県全体の約8.6%を占めるが、昭和60年の216,348人をピークに減少傾向が続いている。また、年齢区分別人口は、年少人口(0～14歳)が14.4%、生産年齢人口(15～64歳)が60.8%、老年人口(65歳以上)が24.2%となっており、その推移を見ると年少人口は減少し、老年人口は増加するなど少子高齢化の傾向が顕著に現れている。

一方、一般世帯数は67,816世帯(平成17年国勢調査値)で、1世帯当たりの人員は2.98人となっている。世帯数は全体として増加傾向にあるが、1世帯当たりの人員は減少しつつあり、核家族や一人暮らしの世帯が増えてきていることを示している。

就業者数については、104,483人(平成17年国勢調査値)であり、産業別の比率は、第1次産業7.2%、第2次産業32.1%、第3次産業60.2%となっている。

就業者数の動向を見ると、昭和60年～平成17年の20年間で就業者数は約7千人減少している。内訳を見ると、第1次産業では約1万1千人も減っており、第2次産業でも、約5千人減少している。これに対し、第3次産業では就業者数が着実に増加を続け、この20年間で約9千人増加している。

4 合併前の14市町村の沿革

【上越市】

明治41年に高田町、高城村が合併して高田町となり、同44年に市制を施行し高田市となる。その後、昭和29年に金谷村、新道村を、同30年に諏訪村、春日村、和田村の一部、津有村、三郷村、新井市の一部を、同34年に

高士村をそれぞれ編入した。

一方、直江津町は昭和 29 年に有田村、八千浦村、保倉村、諏訪村の一部を編入し、同年、市制を施行して直江津市となる。その後、同 30 年に谷浜村、桑取村と高田市の一部を、同 33 年に高田市の一部をそれぞれ編入した。昭和 46 年に高田市、直江津市の 2 市が合併して上越市となった。

【安塚町】

明治 34 年に安塚村の一部、月影村、中保倉村、中川村が合併して安塚村に、同年安塚村の残る一部、小切戸村、沼木村、行野村が合併して小黒村に、同年船倉村、豊坂村、真萩平村、須川村が合併して菱里村となる。昭和 30 年に安塚村、小黒村、菱里村が合併して安塚村となる。同年町制を施行して安塚町となった。

【浦川原村】

明治 34 年に末広村の一部、下保倉村が合併して下保倉村となる。昭和 30 年に下保倉村、安塚村の一部が合併して浦川原村となる。昭和 36 年には、牧村の一部を編入した。

【大島村】

明治 34 年に大島村、仁上村、元保倉村が合併して大島村に、同年旭村、嶺村が合併して旭村となる。昭和 30 年に大島村、旭村、保倉村が合併して大島村となった。

【牧村】

明治 34 年に里見村、川上村、川辺村が合併して牧村となる。昭和 29 年に牧村、沖見村が合併して牧村となる。昭和 36 年には、一部が浦川原村に編入された。

【柿崎町】

明治 34 年に柿崎村、犀浜村、下黒川村の一部が合併して柿崎村に、同年黒岩村、水源村の一部が合併して黒岩村となる。明治 41 年に柿崎村、七ヶ村が合併して柿崎村となり、昭和 9 年に町制を施行して柿崎町となる。同 30 年に柿崎町、下黒川村、黒川村、黒岩村が合併して柿崎町となり、同 32 年に米山村の一部を編入し、平成元年には一部が柏崎市に編入された。

【大潟町】

明治 34 年に潟町村、犀潟村が合併して潟町村となる。昭和 30 年に旭村の一部を編入し、同 32 年に町制を施行して潟町町となる。同時に改名して大

潟町となった。

【頸城村】

明治 30 年に明治村、末広村の一部が合併して明治村となる。同 34 年に大瀧村、南川村、頸城村が合併して大瀧村となる。昭和 32 年に大瀧村、明治村が合併して頸城村となった。

【吉川町】

明治 34 年に水源村の一部、川谷村、上吉川村の一部が合併して源村に、同年上吉川村の残る一部、中吉川村、大出口村が合併して吉川村となる。昭和 30 年に源村、吉川村、旭村の一部が合併し、同時に町制を施行して吉川町となった。

【中郷村】

明治 22 年の市町村制施行で中郷村となる。昭和 31 年に新井市の一部を編入した。

【板倉町】

明治 34 年に板倉村、豊原村、根越村、箕冠村が合併して板倉村となる。昭和 31 年に寺野村を編入し、同 33 年に町制を施行して板倉町となった。

【清里村】

昭和 30 年に菅原村、櫛池村が合併して清里村となった。

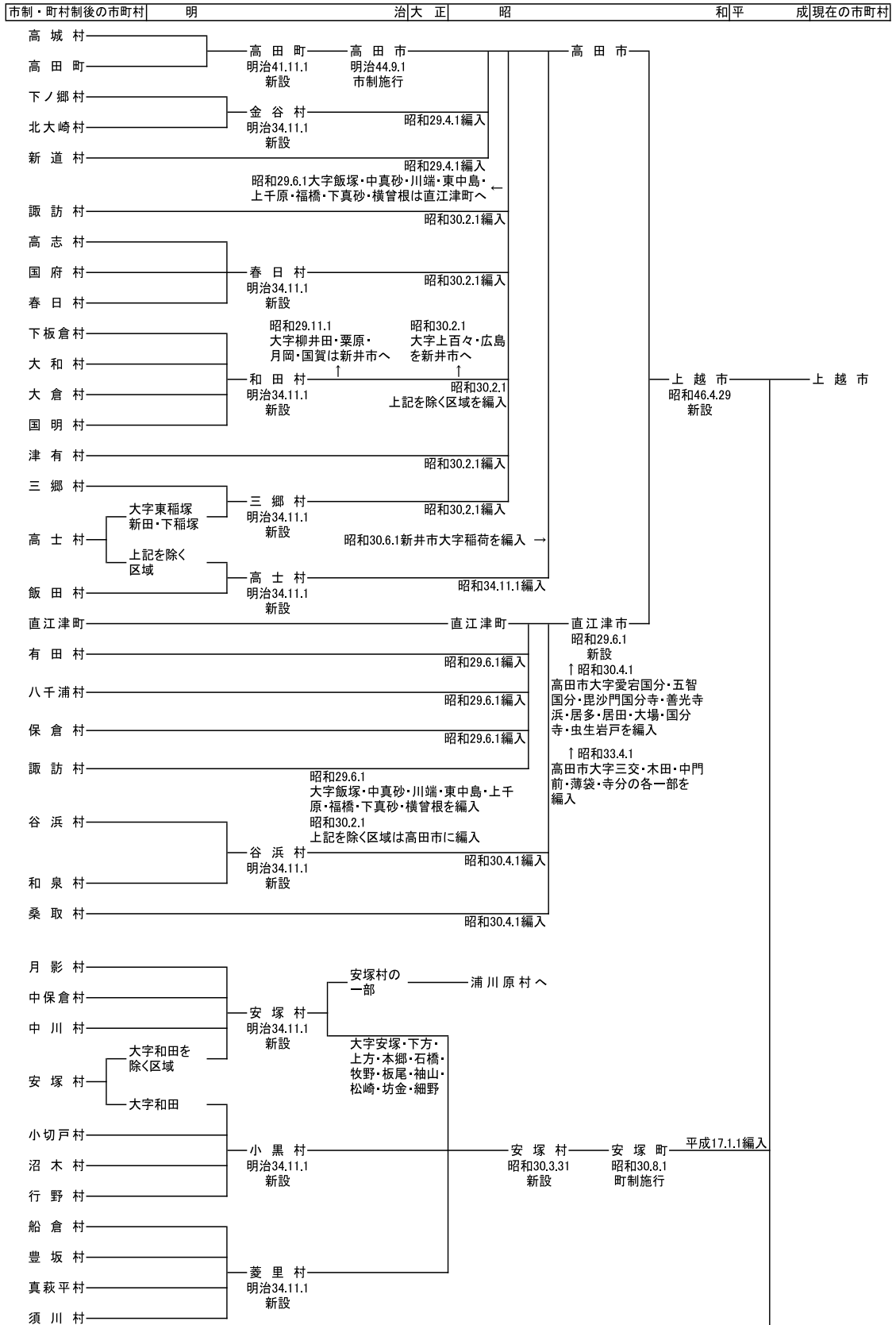
【三和村】

昭和 30 年に里五十公野村、上杉村、美守村が合併して三和村となった。

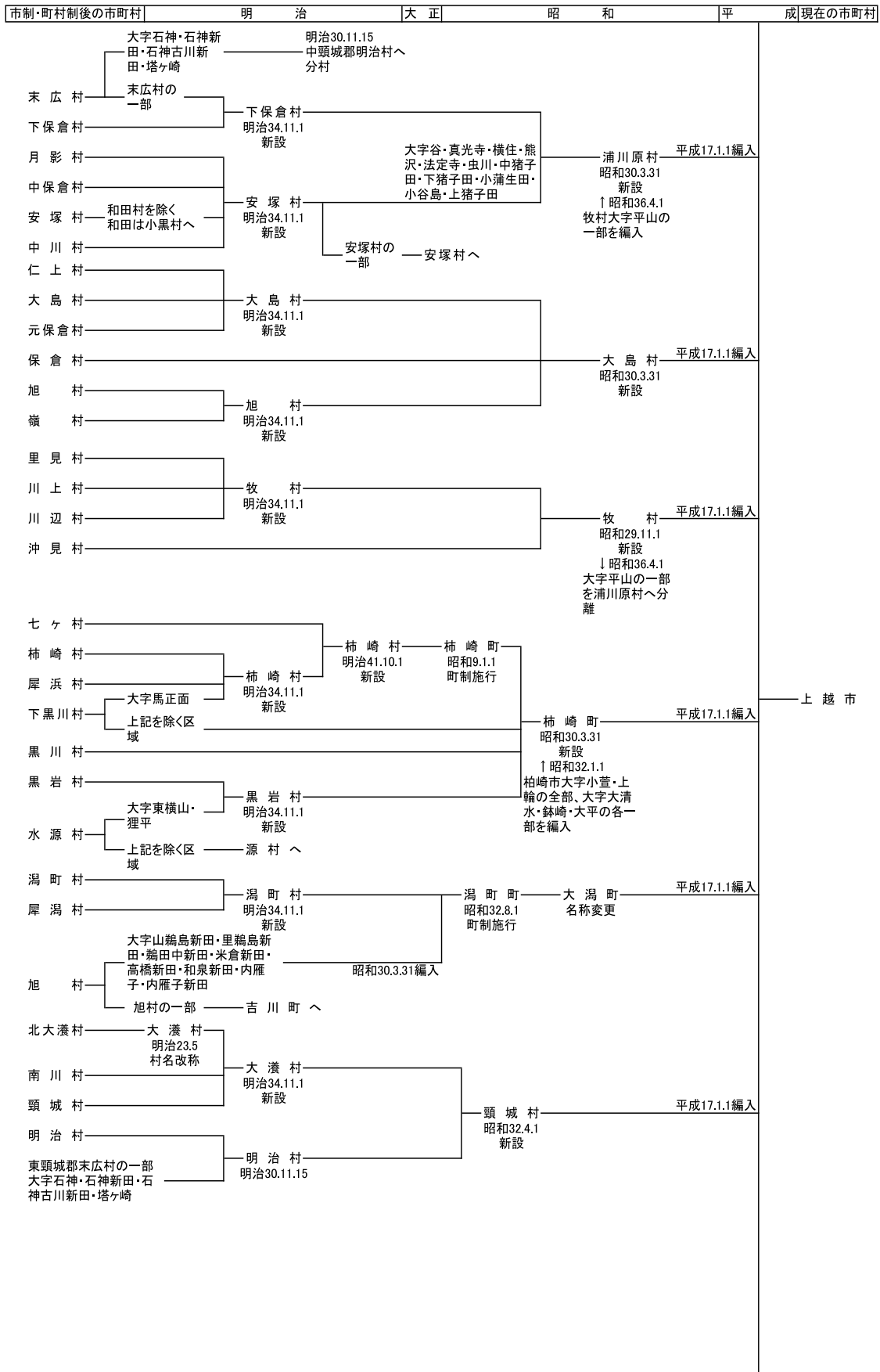
【名立町】

明治 34 年に下名立村、上名立村が合併して名立村となる。昭和 30 年に名立町と名立村が合併して名立町となった。

明治以後の合併の沿革



第2章 新しい上越市の概況



第2章 新しい上越市の概況

